

こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blogです

アーカイブ: 2010年4月

2010/04/27

🕒 23:16:21, カテゴリ: [引用文](#), views: 468 📌

引用文-8・生



未だ生を知らず、いずくんぞ死を知らん。 (孔子・論語)

少女期をすごした足利市は、日本最古の学校「足利学校」があるところ。孔子の教えを広める役割をしていた。

門前には「かなふりの松」と言われる樹があって、弟子たちが読めない字があると、紙に書き、枝に結んでおくと、先生からのお返事が結ばれていたとか。

その歴史を踏まえて、子供たちに「孔子」を読ませる試みが始まったとのこと。

いいお話だなあ。

そのすぐ近くには「足利氏宅跡（鏝阿寺）」がある。

* * *

足利 石原吉郎

足利の里をよぎり いちまいの傘が空をわたった 渡るべくもなく空の紺青を渡り 会釈のような影をまるく地へおとした ひとびとはかたみに足をとどめ 大路の土がそのひとところだけ まるく濡れて行くさまを ひっそりとながめつづけた

• [編集](#)



こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blog
[吸殻山383番地の家に戻る。](#)
[中央1番地に戻る。](#)

- [最新](#) (キャッシュ)
- [最新](#) (キャッシュされない)

2010年4月				
日	月	火	水	木
				1
4	<u>5</u>	6	7	8
<u>11</u>	12	13	<u>14</u>	<u>15</u>
18	<u>19</u>	20	21	<u>22</u>
25	<u>26</u>	<u>27</u>	28	29
<<	<			

- [最近のコメント](#)

Heavy Hitters

- [Test](#) (20 visits)
- [詩の歳時記-117](#) (19 visits)
- [詩の歳時記-82](#) (19 visits)
- [詩の歳時記-56](#) (19 visits)
- [花守](#) (19 visits)
- [Walking1日目。](#) (18 visits)
- [引用文-23・あきらめ](#)
- [詩の歳時記-274](#) 「あ」 (18 visits)
- [詩の歳時記-253](#) 「柳」 (18 visits)
- [詩の歳時記-123](#) 「桜」 (18 visits)
- [ペルギーノ展](#) (18 visits)
- [かぼちゃな一日](#) (18 visits)

検索

2010/04/26

🕒 15:37:17, カテゴリ: [引用文](#), views: 524 

引用文ー7・死



ねえパパ、死ってなに？

ひとつのあやまち ひと眠る一軒の家

ひとつの夢 大いなる忘却

ふるい誤解

ひどく疲れた犬 痛みを忘れて安らかに横たわる

火の近く美しい宵

(フィリップ・クローデル・子どものいない世界・高橋啓訳)

* * *

この物語は、口うるさい大人たちに反抗した子供一同が世界中からいなくなるという痛快なお話です。「フィリップ・クローデル」という作家は表立って「反戦」とは書きませんが、人間のささやかな幸福と灰色の戦争をひそかに共存させた作家です。彼の養女はベトナムの少女「クレオフェ」ですが、この少女（プリンセス）のために書かれたようです。

<http://www.haizara.net/~shimirin/blog/akiko/blosxom.cgi/2009/08/>

• [編集](#)



2010/04/24

🕒 14:41:26, カテゴリ: [引用文](#), views: 441 

引用文ー6・おのこ

全ての語

いずれかの語

フレーズ

カテゴリ

- [All](#)
- [百人百詩](#) (100)
- [詩の歳時記](#) (365)
- [詩日記](#) (20)
- [My Haiku](#) (49)
- [Walking](#) (13)
- [引用文](#) (31)
- [日記](#) (163)

アーカイブ

- [2015年11月](#) (1)
- [2015年7月](#) (1)
- [2015年5月](#) (2)
- [2015年3月](#) (3)
- [2015年2月](#) (2)
- [2015年1月](#) (3)
- [2014年12月](#) (2)
- [2014年11月](#) (2)
- [2014年10月](#) (3)
- [2014年9月](#) (2)
- [2014年8月](#) (2)
- [2014年7月](#) (2)
- [続き...](#)

いろいろ

- [管理](#)
- [プロフィール \(admin\)](#)
- [ログアウト \(admin\)](#)



いまだ名のつかざる男の子あたたかし 小澤 實

名前をつけられ、名前と呼ばれ、言葉を教えられ、ものの名を教えられて人は常識を身に着ける。法に沿って常識は権力に都合のいいように書き換えられ規定される。右にも左にも上にも下にもはみださぬように設定された中での、倫理観やら反骨などはガス抜きに過ぎない。名前のつく前の裸の赤子に無限の可能性が詰まっている。もっとも弱きものの中にもっとも強固な変革の核がある。

* * *

この解釈はいきすぎのような気がします。

>言葉を教えられ

教えられるのではないです。子供は自然に言葉を習得してゆきます。

>もっとも弱きものの中にもっとも強固な変革の核がある。

生まれたばかりの赤ん坊はもっとも弱きものではありませんが、その時「強固な変革の核」は存在しません。それは子供が大人になるまでに内部に育ててゆくものではないでしょうか？子供は大人の設定した世界を生きるわけではありません。

まだ名のない子供への「あたたかないのちへの賛歌」だと思います。

• [編集](#)



2010/04/22

🕒 01:07:26, カテゴリ: [引用文](#), views: 480 📊

引用文-5・牛歩

このブログの配信 

- RSS 0.92: [投稿](#), [コメン](#)
- RSS 1.0: [投稿](#), [コメント](#)
- RSS 2.0: [投稿](#), [コメント](#)
- Atom: [投稿](#), [コメント](#)

[What is RSS?](#)

powered by




「私はこれから死ぬまで、初心を忘れず、拙くとも生きた絵が描きたい。むずかしいことではあるが、それが念願であり、生きがいだと思っている。芸術に完成はあり得ない。要はどこまで未完成で終わるかである。」

日本画家「奥村土牛・1889～1990」の85歳の時の言葉である。今年で生誕120年であり、山種美術館にて展覧会開催中。暖かい今日（あ。もう昨日ですね。）、ふらりに行ってきました。

• [編集](#)



🕒 00:03:13, カテゴリ: [日記](#), views: 537

テスト

書けるかな。

[1 コメント](#) • [編集](#)



2010/04/19

🕒 15:34:10, カテゴリ: [引用文](#), views: 488

引用文ー4・生活の幅



『政治の幅はつねに生活の幅より狭い。本来生活に支えられているところの政治が、にもかかわらずしばしば、生活を支配していると錯覚されるのは、それが黒い死をもたらす権力をもっているからにほかならない。一瞬の死が百年の生を脅かしうる秘密を知って以来、数千年にわたって、かつて一度たりとも、政治がその掌から死を手放したことはない。』・・・
埴谷雄高

「4」だから「死」についてあらためて「埴谷雄高」の言葉を書いてみました。政治に対して、無駄かもしれない闘いをする若者はもういない？

• [編集](#)



2010/04/17

🕒 23:51:36, カテゴリ: [引用文](#), views: 432 🇯🇵

引用文ー3・裸の言葉



「自由詩の今日というのは、言葉が裸の状態で置かれていることでしょう。（中略）この時代に詩が自由であること、つまり裸であることは一見清潔に見える。それは言葉がノイズに近い状態ということで、これが果たして時間的に空間的に遠くに届く言葉でありうるか？」・・・北川透

これは、現代詩手帖創刊50年祭「これからの詩どうなる」というイベントのなかで語られたことを、現代詩手帖の2009年8月号に掲載されたものからの引用です。

ですから、この言葉通りだったかは疑問です。テープ起こし、編集の段階で言葉は変えられている可能性はあると思います。

「裸」「ノイズ」は深く考えさせられました。

・編集



2010/04/16

🕒 01:01:50, カテゴリ: [引用文](#), views: 461 🇯🇵

引用文ー2・猫

春は眠くなる。猫は鼠を捕る事を忘れ、人間は借金のあることを忘れる。時には自分の魂の居所さえ忘れて正体なくなる。

夏目漱石「草枕」より。

<http://www.youtube.com/user/rautiocination#p/a/u/0/Q9NP-AeKX40>

・編集



2010/04/15

🕒 21:50:20, カテゴリ: [引用文](#), views: 589 🇯🇵

引用文ー1・チェンジリング



——もしあなたが死んでも、私がもう一度、生んであげるから、大丈夫。
——…………けれどもその子供は、いま死んでゆく僕とは違う子供でしょう？

——いいえ、同じですよ、と母は言いました。あなたが私から生まれて、いままでに見たり聞いたりしたことを、読んだこと、自分でしてきたこと、それを全部新しいあなたに話してあげます。

大江健三郎「取り替え子・チェンジリング」より。

医者さえ見離した病気の子供に、母親が子供に約束した言葉。
子供は無事に快癒しました。

[2 コメント](#)・[編集](#)



2010/04/14

🕒 01:59:44, カテゴリ: [詩日記](#), views: 848 

詩日記—20 詩



コピー機の前で
3分で詩が書けるとは知らなかった
定型ではない詩の自由が白々しい
定型が凝縮の美しさだとしたら
怖れていた世界の扉を開けてみたくなった。

* * *

……というわけで、休眠します。ではでは。

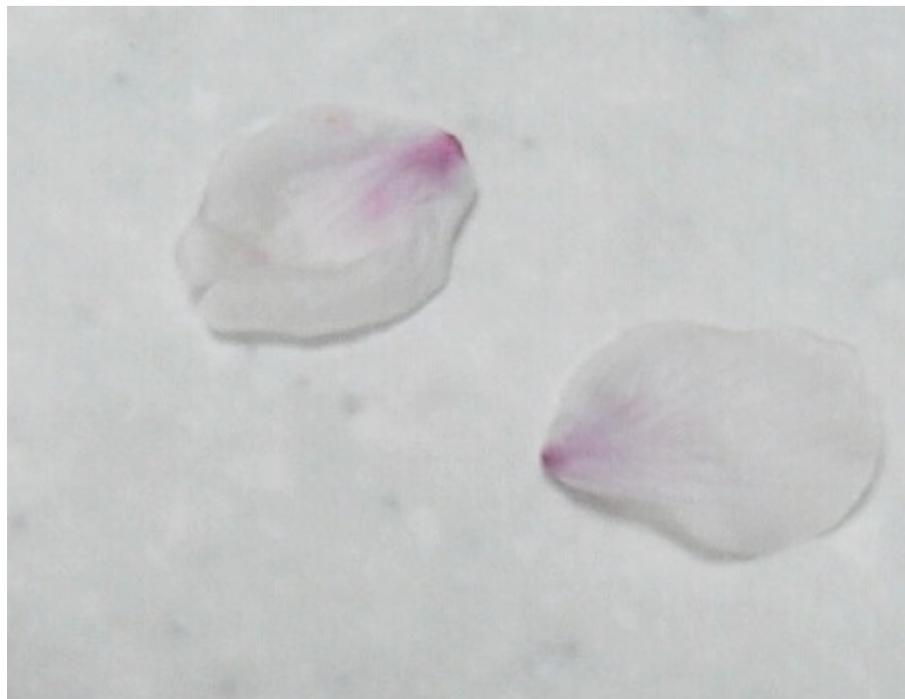
[2 コメント](#)・[編集](#)



2010/04/11

🕒 23:05:50, カテゴリ: [詩日記](#), views: 672 🇯🇵

詩日記一19 風



風が空をゆらす
花ふぶき 花ふぶき
のなかを帰ってきたばかり
花びらは小さな旅をして
キッチンの床にはらりはらり

• [編集](#)



2010/04/05

🕒 15:26:14, カテゴリ: [詩日記](#), views: 713 🇯🇵

詩日記-18 桜



桜の森へ行ったまま
少年は帰ってこなかった
髪に霜をいただいた男が
折れた弓矢を抱えて
しずかに森の出口に腰を下ろしている

• [編集](#)



Original template design by [François PLANQUE](#).

